

2023 年度総会発言録

(司会:小澤)

それでは 2023 年度の計測会総会を開催いたします。計測会会長挨拶、寺倉さんよろしくお願い致します。



(会長:寺倉)

皆さん、こんにちは。

計測会会長、計測工学科昭和 50 年卒の寺倉で御座います。総会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

本日は、お忙しい中にもかかわらず、多数の方にご参加を頂きましてありがとうございます。御座います。

ご来賓には、名古屋工業会から理事長の横山様、名古屋工業大学からは、学長特別補佐の河邊様、同じく物理工学科応用物理分野から分野長の渡邊様、ご多忙にもかかわらずご来賓賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この総会是对面とオンラインを併用しております。総会は50名あまりの方に、講演会は90名近くの方に出席のお申し出を頂きました。遠くは北海道や関東にお住いの方々にも多数ご参加頂いています。また、昭和 39 年、第 1 回卒業生をはじめとした諸先輩から、令和4年、昨年卒業のニューフェースの方まで、幅広い年代の方々にご参加頂きました。これもひとえに、会の活動へのご理解とご支援の現れと喜んでおります。尚、会員は、計測会発足時の計測工学科、その後、生産システム計測コースの卒業生などの変遷を経て、今は物理工学科応用物理分野の卒業生が会員でございます。

さて、次に会の活動をご紹介します。二つの柱を掲げております。一つは、言うまでもなく会員相互の親睦を深めることです。その取り組みの一つが、今日の総会で御座います。11 名の役員が一丸となり準備してまいりました。対面の会場では4年ぶりに懇親会を催します。お楽しみ頂ければと存じます。

活動のもう一つの柱で御座いますが、学生に役立つ会を掲げております。その取り組みを三つご紹介します。まず、今年度からスタートする取り組みをご紹介します。新たな取り組みとして、海外で研究発表する学生へ支援金を贈ります。学生が海外の人との交流を深める機会が少しでも増えればとの思いを込めて支給します。対象は応用物理分野の博士前期及び後期課程に在籍し、海外で研究発表をする学生に贈ります。金額は一人当たり 5 万円を支給します。人数は年間 2 人の学生を予定しております。1 人 5 万円が 2 人の学生に支給できればということなのです。この取り組みの準備には、物理工科学科長の高橋先生、応用物理分野分野長の渡邊先生はじめ関係する多くの先生方にご支援、ご尽力をいただきました。ここに改めてお礼を申し上げます。

また、この取り組みは、今日お見えになっている会員も含めて、会員皆様の協力金があつて実現をいたします。会員の皆様にはあらためて感謝を申し上げます。

学生に向けての2つ目の取り組みですが、これは恒例の計測会賞です。今年も、去る3月25日の卒業式の日に合わせて、物理工学科応用物理分野を卒業する成績優秀な学生に授与いたしました。受賞された方のお名前は中澤正剛様です。これからもこの計測会賞は継続することで、やはり賞の価値は大切ですので、この賞の価値を高めてまいりたいと考えております。

3つ目の取り組みは、この後、引き続き行います講演会です。講演会は、もちろん会員の皆様楽しんでいただくということが大切でございますが、それとともに、その講演会を聞くことにより、学生が少しでも視野を広げ、志が高くなればとの思いを込めて、毎年、講師を選んでおります。今年の講師はトヨタ自動車 情報システム 本部長の日比様にご登壇をいただきます。日比様は計測会員でもございます。是非ご期待ください。

なお、この講演会は応用物理分野に共催いただいています。また、名古屋工業会の後援をいただきました。ありがとうございました。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を願ってあいさつと致します。

(司会)

ありがとうございました。続きまして御来賓の方々からご挨拶をいただきます。
名古屋工業会理事長、横山さん、よろしくお願いいたします。

(横山理事長)

みなさんこんにちは。名古屋工業会の理事長を拝命しております横山でございます。
今年の5月に総会がありましてお役目を頂戴することになりました。これからよろしくお願いいたします。
まずは今日、この計測会にお招きをいただき大変感謝をしております。また、この会が開かれることに大変お喜びを申し上げたいと思います。今、会長の寺倉さんからいろいろ活動の説明をしていただきましたが、非常にたくさん活動をやっていただけることに対しまして敬意を表したいと思います。本当にありがとうございます。

さて、私は昭和49年に名工大の金属工学科を卒業しまして、あまりOB会の活動には参加ができていなかったのですが、たまたま縁をいただきまして2009年から2015年まで足かけ6年間、ちょうど今日いらっしゃってます鶴飼さん、その前の高橋さん、松井さんが学長の時に、名古屋工業大学の経営協議会という学校の運営、会社という取締役会のような位置のお役目を頂戴しました。それで縁ありまして5月から理事長をやっております。



5月の総会のときに皆さんに、名工大は英語で言うと N.I.T. Nagoya Institute of Technology なのですが、工業会は違う N.I.T.で行くぞと。「仲間と・いつまでも・つながろう」ということを一つの旗印にして活動強化するという話をさせていただきました。そのためには皆さんご存じのように工業会というのは本部があって、一応組織上は支部が全国に20弱あり、そこが活動の母体ですが、やはりこういった計測会をはじめとする単科会が活発に活動していただくことと、中部地方を中心に企業の中、例えば私は元トヨタ自動車の中で「ごきそ会」という活動をしていましたが、企業内の活動や様々なつながりの中において、グループで活動していただくところをうまくつなぎ合わせて、会員の連携強化やコミュニケーション強化、会の盛り上げにつなげていきたいなと思います。

今日は後ほど講演を聞かせていただくということで、懇親会もご用意いただいているということで、皆さんと一緒に有益で楽しい時間を過ごしたいと思います。今日はよろしく申し上げます。ありがとうございました。

(司会)

横山さん、ありがとうございました。続きまして、学長特別補佐 川邊さん、お願い致します。

(河邊学長特別補佐)

皆さんこんにちは。名古屋工業大学長、木下隆利先生に代わりまして、学長特別補佐で、卒業生連携室と基金室の室長を仰せつかっております河邊伸二が代わりにご挨拶させていただきます。

本日は、計測会総会の開催おめでとうございます。



まず、最初に大学の近況についてお話しいたしたいと思います。皆様方に今日パンフレットをお渡ししましたので、こちらを見ながらご説明させていただきます。名古屋工業大学は一世紀を超えて、中京地域の産業界と共に歩み、我が国屈指の工業大学へと成長いたしました。現在では産業界との結びつきが非常に深まっており、産業界の要望に基づく教育改革を行っております。

従来の高度工学教育課程に加えて、新たに設置しました創造工学教育課程は、学部4年、修士2年の6年一貫教育課程です。この課程から2022年3月に、85名が第一期生として旅立ちました。就職率100%でした。お配りしたこのパンフレットの最後のページをご覧ください。創造工学教育課程とともに、従来の夜間課程を改組し

た基幹工学教育課程があります。この課程に全国の高校や工業高校から 21 名が、2022 年 4 月に第一期生として入学しました。

これで、従来の工学部の課程である高度工学教育課程、創造工学教育課程、基幹工学教育課程の三本柱で現在、学部の教育が成り立っているところです。

一方ドクターコースは一つの工学専攻に統合いたしまして、研究分野の異なる教員による複数教員指導体制となっているところです。

また、整備が進むアートフルキャンパスをプラットフォームとして、「心で工学」を行動理念とする工学エリートに社会に送り出しています。今、スクリーンの方にアートフルキャンパス構想のスライドをご用意いたしました。1905 年の創立以来、産業基盤の創出、産業人の育成を担い、御器所キャンパスは、そのプラットフォームの役割を果たしています。このキャンパスに、愛知県立芸術大学の協力のもと、アートによる新たな風を取り入れ、芸術に親しむことにより、「心の豊かさ」を育んでいきます。このスライドがスケジュールです。現在 2023 年の途中で、今年で 3 年目に当たっております。

今、会場に来ていただいた時も、例えば、この建物の入口に、アート作品やモザイクタイルの作品があることに気づかれたと思います。このスライドの写真は、古墳の前、生協の食堂の建物の柱のアートです。このように学内の至るところに、多くのアートがあります。また絵画、彫刻にとどまらず、愛知県立芸術大学の芸術作家とともに、名古屋工業大学の美術部やソーラーカー部などが共同制作のプロジェクトを行っています。

こちらのスライドの写真は、実際に愛知県立芸術大学に名古屋工業大学の学生が出向いて、紙漉きを行っている様子です。このように共同で名古屋工業大学の学生と愛知県立芸術大学の先生方やアーティストとともに活動を行っているところです。

続きまして、基金室長として大学基金について、お話をさせていただきます。お手元のパンフレットを見ていただければと思います。現在、大学基金といたしまして、皆さん方からご寄付をいただいております。

2022 年度は個人、団体合わせて 473 件、6048 万円という多大なるご寄付を大学にいただきました。多大なるご寄付にこの場をお借りしまして心より感謝いたしたいと思います。

また、この大学基金は学生への支援、国際交流への支援、及びご指定の事業、ボート部やヨット部や剣道部はじめそれぞれの課外活動などの特定基金に活用しております。体育会系、文化系の課外活動の特定基金で、卒業生の方から自分の所属していた部活動に寄付していただくことに取り組んでおります。

また、アートフルキャンパスに関しても特定基金を設けております。その名前はアートフルキャンパス整備基金です。こちらの方にも多額のご寄付をいただいております。皆様の寄付の成果としてキャンパス内のいろんなところに作品が飾られようになりました。

また、今年度から新たな事業として、特定基金に女性活躍支援基金を設置して、女性工学人材の活躍を支援しております。また一般基金を活用して、国際学会発表支援事業として、学生の国際学会への発表を支援するということになりました。

今後も基金による支援を充実していく予定ですので、名古屋工業大学基金へのご支援を賜りますよう、よろしくごお願い致します。名古屋工業会の方々や卒業生の方からも多くのご寄付をいただいておりますので、計測会の諸先輩方からもご寄付を賜りますよう、重ねて、何卒よろしくごお願い申し上げます。

名古屋工業大学は、「心で工学」を合言葉に、「ものづくり、ひとづくり、未来づくり」に励んでいます。今後とも皆様のご協力ご支援をよろしくお願い致します。

以上簡単ですが、大学の近況と基金のお願いにて、ご挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願ひ致します。どうもありがとうございました。

(司会)

川邊さん、ありがとうございました。続きまして、名古屋工業大学物理工学科応用物理分野長 渡邊さん、宜しくお願ひ致します。

(渡邊分野長)

皆さんこんにちは。

2023 年度に物理工学科応用物理分野の分野長を拝命しました渡邊と申します。皆さんどうぞよろしくお願ひ致します。



私の簡単な自己紹介をしておきます。私は今から 20 年ほど前に、当時の生産システム工学科に着任をいたしました。ちょうど大学の変革期で改組のタイミングの前年か前々年ぐらいだったと思いますが、それ以来計測分野の一員として名工大で教育研究にあたり、今日まで活動してまいりました。

今日は計測会の偉大なる先輩方や多くの皆様方とこのような形でお会いすることができまして、大変光栄に思っております。またこのような場にお招きいただいてこの場を借りて感謝を申し述べたいと思います。

現在、応用物理分野には、1 学年あたり学部生が 60 名程度、大学院生が 30 名から 40 名程度在籍しております。皆さんもよくご存知だと思いますが、コロナ禍がようやく開けたという状況ですが、ちょうど今の 4 年生が大学に入学した頃がコロナ禍の真っただ中でした。オンラインを中心とした教育がずっと中心でキャンパスライフを送ってきた学生が、来年の 3 月に卒業するということになります。

そういう面でもこれまでの学生とは、過ごしてきた大学生活が違って、私自身もいろいろ思うところもありますが、学生の様子を見ていますと、対面でのコミュニケーションの機会というのがなかったりとか、いろんなイベント、飲み会とかもなかなかできなかったこともあって、そういうイベントを開くと非常に皆さん生き生きとして話をしたり、学習への意欲も非常に高く、コミュニケーションを欲しているような印象をすごく受けます。

そのような学生を、我々分野の教員としても一生懸命サポートして社会に送り出していければと考えております。そういう場面でも OB の方から様々な協力をいただければ、我々としても大変ありがたいと考えております。

また、先ほど計測会会長の寺倉様からお話がありましたが、学生の海外渡航に関する支援をいただけるというお話です。この後、議論になると思いますが、国際化やグローバル化が進んでいる昨今ですので、学生が海外に出て様々な国の人とコミュニケーションを取るような機会をエンカレッジしていただけるということで、我々教員としても大変ありがたい制度であると考えております。そのような機会をご提供いただきました計測会にこの場を借りて、改めてお礼を申し上げたいと思います。

簡単ではございますが、私の挨拶に代えさせていただきたいと思います。
ありがとうございました。

(司会)

川邊さん、ありがとうございました。続きまして、活動報告を野村さん宜しくお願い致します。

(野村)

お待たせしました。ZOOM の操作もやっていますので。

冒頭、少しZOOM にトラブルがありまして、寺倉会長の挨拶の前半部分のZOOM の音声がか切れてしまいました。すみませんでした。

活動報告をいたします。資料の上半分が過去一年の活動実績になります。また下半分が今後一年の活動計画になっています。

上の活動実績ですが、1 番目としまして昨年 10 月 1 日に計測会総会、講演会を行っております。2 番目はメールマガジンです。この 1 年で 4 回発行しております。3 番目は計測会賞の授与で、理工学部の学部の 4 年生の成績優秀者、先ほどお名前がありました方に授与しております。内容は恒例になっているネーム入りの高級ボールペンを授与しております。4 番目としまして、計測会紹介用のパンフレットを新たに作成しまして、卒業生の皆さんに配布しております。卒業と同時に計測会員になるということを説明致しました。今のところ、学部卒業生 7 名からメールアドレスの登録依頼がありました。5 番目は、計測会ホームページの新規掲載コンテンツです。ここに挙げました講演録や会員の皆様からのご寄稿 8 件、計測会会長挨拶など役員会の方から 4 件の新規コンテンツを掲載しております。6 番目ですが、これは先ほどからお話が出ていますが、海外研究発表をする学生への支援金制度というのを提案させていただきまして、応用物理分野様と基本合意を致しました。内容につきましてはマスター、ドクターが対象になるのですが、一名あたり準備金という名目で 5 万円を二名の方に支給するという内容にしております。

次に活動計画ですが、1 番目としまして、来年度も今回同様、総会講演会をオンラインも併用して開催したいと思っております。2 番目としまして、ホームページを活用して会員間の情報交流を進めることを継続してまいります。

特に最近、会員の皆さんから同期会を行いましたとか、同期会やる予定があるといった声が聞こえてきておりますので、ぜひ同期会を行いましたら、同期会報告のご寄稿をお願いしたいと思っております。

原稿を作るのも大変ですので、文案メモなどを写真と一緒に送っていただきましたら、事務局の方で原稿の下書きをしますので、ぜひよろしく願いいたします。

3 番目のメールマガジンも従来通り、年 3 回以上は出したいと思っております。4 番目は、学生への貢献、支援活動ですが、継続案件としましては計測会賞の授与、また今回のような講演会については、学生が興味を持てる夢のあるテーマにしていくということです。

また、新規として先ほどの海外研究発表者の支援金制度これは運用細部を詰めてまいりまして今年度中に実施をしたいと考えております。

以上です。

(司会)

ありがとうございました。続きまして決算報告を会計の西村さんと会計監査の守田さん、よろしくお願いいたします。

(西村)

計測会の会計担当の西村です。

2022年度の会計報告と23年度の予算案を説明させていただきます。

まず2022年度ですが、コロナによる外出自粛が続きまして、計測会での総会を初めて対面とZoomの配信という並列開催としまして、遠方からのご参加もいただきました。

一方残念ながら懇親会は開催を見送っております。またここ十年近く続く運営資金の減少に伴い、会員の皆様に運営協力金のご寄付をお願いしました。非常に多くの方の皆様にご寄付をいただきまして、その結果、2022年度の収入は前年度からの繰越金と運営協力金、それから預金の利息合わせまして903,156円の収入がございました。

支出の部ですけれども、講演会のポスター、講演講師への手数料、それからホームページの契約金の更新、令和四年度の計測会賞記念品等を含めまして70,547円の支出がございました。差し引き832,609円が、今年度2023年度への繰越金となりました。これは会計監査担当の守田さんに行っていたいておりますので守田さんから一言お願いします。

(守田)

本決算報告につきましては帳簿及び領収書に基づいて監査したところ、会計基準に則って適正に処理されていることをここにご報告いたします。

(西村)

続きまして2023年度、今年度の予算案について説明させていただきます。

収入の部は昨年度からの繰越金832,609円に加え、今年度も皆様からご寄付をいただこうと思っており、その運営協力金20万円を見込んでいます。そして今年度は工業会から支援金5万円がいただけると内諾をいただいておりますので、合わせまして1,082,609円が収入の部となります。

支出は計測会賞の記念品代、卒業祝賀会協力金、今開催しております2023年度の総会関係費用、この後開かれます懇親会の補助金、それから先ほどご説明がありました理工学科の学生への支援金、役員会への出席旅費、支部支援金、ホームページ維持費を合わせ348,000円を見込んでいます。従いまして、予定通りいきますと来年度への繰越金は734,609円になる見込みです。

このスライドのグラフは2022年度までの繰越金の推移を示したものです。一昨年まではずっと減ってきていたのですが、昨年皆様に運営協力金のご寄付をお願いしましたところ多大なご協力をいただき、今年度は832,609円という繰越金を予算の中に組み込むことができました。今年度ですが、現役の学生さんの参加が前提となり

ますが、名古屋工業会から 5 万円の支援金がいただけるということ、さらに新たに物理工学科の学生の皆さんに支援事業として、海外での学会発表に対して最大 10 万円、2 名まで、1 人 5 万円を支援するということを始めます。それを含めて来年度への繰越金を今年度並みに確保するために、予算案で示しましたように今年度も皆様から運営協力金の寄付をいただきたいと思います。予算案で示しました運営協力金 20 万円というのは一昨年までの実績値の平均としております。皆様の多大なご協力をお願いいたします。

運営協力金につきましては、また改めまして皆様の方に協力のお願いをさせていただく予定ですが、ここに運営協力金の振込先を示しておきます。よろしくお願ひします。

以上です、ありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして役員紹介を寺倉さん、よろしくお願ひします。役員の方は全員壇上に上がってください。

5 分ほど押してますので、早く上がるようにお願ひします。

(寺倉)

役員は、今、上がってきますが、全員で 11 名おります。そのうちの 2 名は大阪支部と東京支部ですので、オンラインでして、今日現地に来てここにきておりますのがこれだけです。先ほどから野村はパソコン操作してますので下にいます。あと、画面に出ておりますが、東京の小川と坂尾さんは見えますか。

(小川)

東京支部の小川です。よろしくお願ひします。東京支部は年々、平均年齢が上がってきてましてですね。ぜひ若い人が入ってくるように、努力したいと思ひます。宜しくお願ひします。



(坂尾)

大阪支部の坂尾です。今日はどうもズームのバグなんですかね？ ビデオがオンになりません。すみません。ビデオオフのままでは行きたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(寺倉)

はい、これからもこの役員で、計測会を頑張って取り組んでいきます。よろしくお願ひします。

(司会)

それでは質疑を受けたいと思います。質疑ある方は挙手もしくはズームの方はマイクで、お願いします。よろしいでしょうか？ ではここで締めたいと思います。

続きまして会員の方からスピーチをいただきたいと思います。

はじめに北海道からズームで参加していただいています。大先輩の昭和 41 年卒の三田村さん。よろしくお願いします。

(三田村)

ご紹介ありがとうございました。総会出席の皆様こんにちは。計測工学科 3 期生、昭和 41 年卒の三田村です。



計測工学科在学中に工学の医用への応用について興味を持つようになりまして、計測工学科卒業後、北海道大学にあります応用電気研究所のメディカルエレクトロニクス研究室に移りました。大学院は電子工学専攻を 5 年間で修了しまして、幸いなことに修了と同時に研究所の助手に採用されました。以後、応用電気研究所、東海大学電子情報工学科、北海道大学のシステム工学科に勤務しまして定年退職を致しました。

計測工学科の学生時代には、計測数学、物理計測、電気計測、機械計測などの幅広い範囲の工学基礎を教えていただきました。今日、大学には新しい独創的な研究が求められているため、大学院に重点が置かれているように思われますが、私自身としては大学の教育の真髄は学部教育にあると思っております。今でも学生時代に使用しました電磁気学とか応用数学などの教科書をしばしば参考にします。

これに対して大学院で使用しました教科書はほとんど見る機会がありません。これは、大学院当時は最新の技術でありましたが、5 年も経ちますと過去の技術になり、その教科書を見ることはなくなるというような状況でした。このように学部で習いました工学基礎の知識は、知識自身としては百年以上前の非常に古い知識ですけれども、学生時代も現在も将来も非常に役に立つ知識ではないかと思っております。これらの工学基礎の知識をもとにして、自分で勉強すれば、これから出てくるであろう全く新しい研究や技術も理解できるようになるのではないかと思っております。

自分の人生を振り返りまして計測工学科で学んだということは非常に良かったのではないかと今では思っております。計測工学科を卒業した若い皆様のますますの発展を希望しております。

以上です。ありがとうございました。

(司会)

三田村さん、ありがとうございました。

続きまして、元名古屋工業大学学長の鶴飼さん、よろしくお願いします。

(鶴飼)

皆様こんにちは。名古屋工業大学によろそおいでくださいました。ありがとうございます。

私は昭和48年に入学いたしまして、52年に学部、54年にマスターを卒業し、55年からは電気工学科の教員として勤務いたしまして、2020年3月にやっと名古屋工業大学を卒業することができました。なんと47年間もこの大学にお世話になりました。留年したわけではなくて、一本松古墳にも実はその間一歩も足も踏み入れておりません。ですから留年ではないのですが、50年間この大学に大変お世話になりました。現在は私立大学に移って学長を務めさせていただいておりますが、50年近く大学に関わっている身分として、少しだけ大学についてお話をしたいと思います。



先ず、昨年から名古屋工業会の理事長に就かれました横山さんの方からもご紹介がありましたが、各大学にとって同窓会の力はすごく大きくなりつつあります。これは私立大学だけではなくて国立大学、公立大学すべて含めて同窓会の組織力というのが、その大学の命運を握っていると言っても私は過言ではないと思っております。

そういう意味では名工大の場合は、名古屋工業会という全体の同窓会もございまして、その元になっている学科の単科会というものが、きちんと整備されて、その工業会を形作っている。この形がずっとこれからも続いていくことを私も望んでおりますが、計測という名前を消してしまった責任もございまして、残りの人生、計測会に尽くしてまいりたいと思っております。

それからもう一つは河邊先生の方からもございました寄付でございます。

河邊先生が最後に少しずつ何か申し訳なさそうに言っておられましたが、この寄付をいくら集めるかということは、国立大学にとっても大変重要なことでございます。いろんな寄付のタイプがございまして、特定寄付というものもございまして、ちょっと先生紹介されなかったのですが、いわゆる現物寄付が認められております。これは私の学長の時に文科省が認めてくれたのですが、土地でも株でも寄付することができます。もうすでに名工大でも株を寄付していただいた方が何人いらっしゃるのですが、その株の運用益でもって学生に例えば奨学金を配布するといったことも現在行っております。

同窓会の役割として、その大学のプレゼンスを上げるとともに、そういう寄付を、多大なるご寄付をいただいて、大学の運営にご協力いただくということが同窓会の役割ではないかと思っております。これが今後の国立大学、

名古屋工業大学の将来に対するその大きな力になるのではないかと考えております。引き続き計測会の同窓生の皆さんには、名古屋工業大学へのご理解とご支援を賜りますよう、もうすでに卒業して3年以上経ちますが、かつての学長としてお願い申し上げるところでございます。よろしくお願い致します。

本日はどうもありがとうございました。

(司会)

鶴飼先生、ありがとうございました。

総会のプログラムはこれにて全て終了いたしました。以上で計測会総会を終了いたします。

15時から講演会を開始いたしますので、それまで休憩といたします。よろしくお願い致します。

===== 講演会後の閉会挨拶 =====

(司会)

では、閉会の挨拶を大鑄さんお願いします。

(大鑄)

大鑄と申します。よろしくお願い致します。閉会の挨拶ですが、挨拶はなかなか苦手なのですけど。

今日2時から計測会の総会が始まりまして、その後、特別講演ということで一応プログラムの大半は過ぎました。あともう一つプログラムが残ってまして、それはビールを飲むということかなと思いますが、その前に一言ご挨拶をさせていただきたいと思います。



まず総会です。去年の計測会の活動報告とこれから一年間の予算案が紹介されまして、一応承認を頂きました。その中の目玉というのは、寺倉会長からのお話にもありましたように計測に関係するというか、ゆかりのある学科の大学院も含め、学生の研究活動、特に海外での研究活動、それへの援助をするための制度が立ち上がりました。それは今年から実施ということになりますが、いろいろと改善等々がこれから進んでいくものだと思います。その中で、おそらく皆さんのご力を仰ぐことも多々あるかと思いますが、その際にはまたよろしくお願いをいたします。

もう一つは特別講演です。最近いろいろ聞いてはいるのですがデジタルトランスフォーメーションです。デジタルトランスフォーメーションというのはなかなか難しいところがあるかと思うのですが、領域的に個別的に見ていか

ないとなかなか理解ができない。今日お話を聞いたところでは、トヨタのDXが一体何を狙っているのか、何を望んでいるのか、その背景は何なのかということが明確に説明をされて非常に勉強になったと思います。日比さん、どうもありがとうございました。

これからの一年間ですけれども、国際政治の場、国内政治の場、それから日本列島を含む周辺の状況等々、いろいろ見えていますとなんとなく暗澹たる気持ちにならざるを得ないということもあります。さらには、空中を想像すると、コロナ菌であるとか、その変異株であるとか、インフルエンザの菌であるとか、そういったものもなんとなく見えない恐怖というか、恐れとして抱かざるを得ないなと思うのです。

けれども今日最初の方で工業会の理事長の横山さんがNITということを紹介していただき、Nというのは仲間、Iというのはいつまでも、Tというのが強くつながろうというそういった意味だったかと思います。計測会の会員一同、NITをやれば多分いろんなこと、いろんな問題を乗り越えていくことができるのではないかと考えています。来年一年間いろいろ活動の後、また再会できればと思っています。元気な笑顔で再会をしたいと思っています。

今日はどうもありがとうございました。

(司会)

大鑄さん、ありがとうございました。

それではこれにて2023年度計測会総会・講演会を終了致します。